

やまのべ 議会だより

創る、繋ぐ。子どもたちが誇れるまち

2022
令和4年1月27日発行
No.115

やまのべ議会だより

2022年1月号 VOL.115



いっしょに歌おひよー!

第4回定例会	2
第4回臨時会	4
一般質問	4
議会活動報告	8

写真/やまのべ少女少女合唱団
「クリスマス会」(関連記事 10ページ)

山辺町議会
ホームページは
こちら

発行/山形県山辺町議会
編集/広報常任委員会

Eメール:gikai@town.yamanobe.yamagata.jp
〒990-0392 山形県東村山郡山辺町緑ヶ丘5番地
TEL.023-667-1117 FAX.023-667-1112



●発行/山形県山辺町議会 ●編集/広報常任委員会
〒990-0392 山形県東村山郡山辺町緑ヶ丘5番地 ○印刷/藤庄印刷株式会社



第4回定例会

撮影時のみマスクを
はずしております

ニット議会開催

～お気に入りのニットで、町をPR～

議員と町幹部職員が町特産のニットの着用し、和やかな雰囲気の中、熱い議論を交わしました。

表紙の説明



やまのべ少女少女合唱団のクリスマス会にお邪魔してきました。家族や招待者全員での合唱から始まり、クイズやゲームなどみんなで楽しめる催しもたくさんあつてとても楽しそうでした。最後に合唱団による歌の披露がありました。招待者にはプレゼントなどもあり、最後まで笑顔あふれる催しでした。今は団員9名しかいないようでしたが、今後もっと増えてくれるといいですね。これからますますらしい歌声を聞かせてください。歌う前にマスクをはずした笑顔を撮影させてもらいました。

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は56年ぶりに東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。各選手の方々から勇気と希望を与えていただいたのではないのでしょうか。そして令和4年は寅年です。山月記の一説に「人間は誰でも猛獣使いであり、その猛獣に当たるのが各人の性情だ」という言葉があります。現在、オミクロン株など新たなウイルス拡大もあり、人々の不安を掻き立てております。そのような現状だからこそ、自分の中の虎を飼い慣らし一人ひとりが感染症対策を講じながら安全安心で笑顔と活気のある素敵なまちを作っていきましょう。安達春彦

- 発行責任者 樋口 和男
- 広報常任委員会 渡邊 裕二
- 委員長 安達 春彦
- 副委員長 遠藤 真由美
- 委員 佐藤 利博
- 委員 峯田 和博
- 委員 竹俣 朋

◎町ホームページから、議会だよりが閲覧できます。

<http://www.town.yamanobe.yamagata.jp/>



令和3年度一般会計補正予算 2億2312万円を追加し 総額61億287万円に

誰ひとりとり残さない まちづくりのために

定例会のあらまし

令和3年第4回定例会が、12月8日から10日までの3日間の日程で開催され、6名の議員が一般質問を行いました。条例の一部改正など6議案、一般会計および特別会計補正予算5議案を審議し、11議案はいずれも全員一致で可決されました。

議案審議

○作谷沢辺地に係る総合整備計画の一部変更

法制度上総合整備計画変更のためには、県との事前協議と議会の議決が必要である。今回の変更は、飲用水供給施設更新事業として、事業費600万円、辺地対策事業債570万円を追加し、辺地全体として事業費8320万円、辺地対策事業債6570万円とするものである。

なお、県の同意は令和3年11月8日付けで得ている。

条例の制定および一部改正

○山辺町学校施設整備基金条例の制定
学校施設の長寿命化に向けて、改築、改修、その他整備等に要する経費の財源確保を図るため制定するもの。

○町簡易水道条例の一部改正
簡易水道料金を改定し、経営の健全化と適正な受益者負担を図るもの。

○町国民健康保険条例の一部改正
まえ、減免の申請期間を緩和し、国民健康保険税の減免申請期間を納期限までに改めるもの。

町税条例の一部改正

新型コロナウイルス感染症の影響など昨今の社会情勢を踏まえ、減免の申請期間を緩和し、町民税、固定資産税、軽自動車税種別割、特別土地保有税などの減免申請期限を納期限までに改めるもの。

○町国民健康保険税条例の一部改正
健康保険法施行令一部改正により、出産育児一時金の支給額を40万4千円から40万8千円に、給付額の一部を改正するもの。

また、軽自動車税種別割の税率について、軽自動車である被けん引自動車の税区分を規定し、適正な課税を行うもの。

新型コロナウイルス感染症の影響など昨今の社会情勢を踏



学校施設の長寿命化に向けて



子どもたちのすこやかな成長のために



対面でのぬくもりある接客（山辺温泉）

特別会計補正予算

○国民健康保険特別会計補正予算
1521万3千円を増額。
総額15億1230万3千円
主な内容…保険税還付金（固定資産税の課税誤りによる還付）1500万円増

○後期高齢者医療特別会計補正予算
予算総額に変更なし。
主な内容…広域連合納付金（令和2年度負担金の清算による）209万円増

公営企業会計補正予算

○簡易水道事業会計補正予算
15万円を増額。
総額3295万円
内容…貸倒引当金繰入額（令和3年度簡易水道料金収入額の見通しによる）15万円増

○公共下水道事業会計補正予算
316万円を増額。
総額3億7297万円
内容…修繕費（マンホールポンプ修繕）160万円増
貸倒引当金繰入額（令和3年度使用料及び受益者負担金収入額の見通しによる）156万円増

一般会計補正予算

主な補正内容

- 子育て世帯への臨時特別給付金給付事業 …… 1億1676万円増
- 教育・保育施設給付事業（加算率増などによる実績見込み） …… 4334万円増
- 児童手当支給事業（実績見込み） …… 1170万円減
- 新型コロナワクチン接種事業 …… 6856万円増
- 山辺温泉保養センター運営事業（管理業務委託料増額） …… 1100万円増
- 担い手育成支援事業（令和2年度大雪災害支援） …… 750万円増
- 新型コロナウイルス感染症経済対策事業（実績確定） …… 2449万円減
- 除雪事業（前年度実績による） …… 3000万円増
- 常備消防活動事業（前年度の精算および調整による） …… 801万円減
- 体育施設維持管理事業（町民プール開場中止による） …… 1648万円減

債務負担行為補正

追加

（項目）山辺町中央公園及び体育施設指定管理料
（期間）令和4年度から令和6年度まで
（限度額）118,551千円

変更

（項目）山辺町温泉保養センター指定管理料
（限度額）36,920千円

第4回 臨時会のあらまし

令和3年10月18日第4回臨時会が開催され、一般会計補正予算第4号が原案どおり可決されました。

新型コロナウイルス

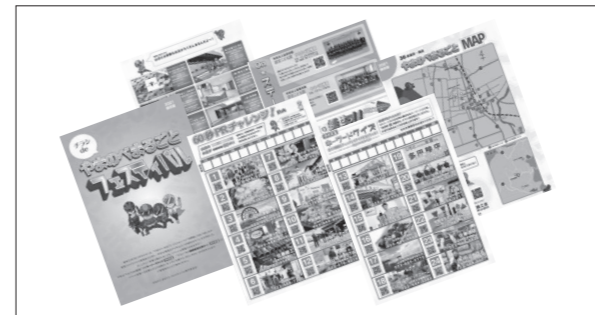
感染症対策事業を可決

令和3年度一般会計補正予算

既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ3177万円を追加し、総額をそれぞれ58億7974万円とする。

主な補正内容

- 小学校管理事業 3063万円
- 体育施設維持管理事業 269万円
- 経済対策事業 100万円
- チラシDEやまのべ・まるごとフェスティバル実施支援補助金 30万円
- 山辺温泉保養センター運営事業



今年度のまるごとフェスティバルはチラシによる開催

豪雨災害



斉藤 昭彦

内水氾濫軽減のための排水ポンプを増やしては

(町長) 国や県の排水ポンプなど活用を要請を行う

質問 今後の排水ポンプの配備計画の考えは。

答弁 町で配備している1分間10立方メートルの排水ポンプ1台と、県への要請で1分間に10立方メートル排水ポンプ2台、国への要請で1分間に60立方メートル排水ポンプ車1台と30立方メートル排水ポンプ1台、全5台の排水ポンプなどを活用し対応する。

質問 遊水地の整備計画についての考えは。

答弁 小鶴沢川については「村山圏域河川整備計画」を変更し新たに追加し整備していく計画である。この事業が完了すれば、右岸

質問 大雨に対する町民の不安を取り省くために、町の考えは。

答弁 近年発生した災害の教訓から、「自らの命は自らを守る」意識の徹底などによる防災意



町取得の排水ポンプ

質問 左岸合わせて4m幅の削り込みが、河床も約1メートル程度掘り下げられ、越水防止につながる。本年度も須川の河道掘削の事業が順調に進んでいるので、支川からの流入も順調になると考える。

識の向上が大切になってきている。災害時には「自助」である自分の身は自分で守ることが一番大切であり、続いて地域住民などによる自発的な防災活動である「共助」が極めて大切であることから、自主防災組織の育成に努める。今年度「避難所開設運営マニュアル」を策定し、ホームページで公開している。また、各公民館への設置している。

答弁 年2回「Q-Uアンケート」*を実施し、総合的な視点からアンケートに書ききれなかった児童生徒の小さな変化に気づき、いじめの早期発見・未

質問 「いじめ発見調査アンケート」に書けない子どもの声をいかに拾い上げていくか」という点に対して取り組みの進捗は。

答弁 令和3年7月からメールでの相談受付を開始した。返信は行っており相談予約の申し込みのみ。まだ申込件数は多くはないが、さらに周知を図っていく。



不登校や自殺に至るアラートに気づける仕組みを

質問 「インターネットを利用した相談環境づくり」について進捗は。

答弁 月1回程度「悩み事アンケート」を実施して補填している。

質問 年2回では十分に変化に気付けないと思うが頻度についてはどうのように考えているか。

答弁 自殺・不登校につながる前のアラートに気づける環境づくりに関する考えは。

質問 直接話すよりもメールやチャットの方が相談しやすい人もいるが、その点への対応はないのが現状。

答弁 文字だけの判断は難しく対応できないのが現状。

質問 自殺・不登校につながる前のアラートに気づける環境づくりに関する考えは。

答弁 「いじめ発見アンケート」や「教育相談室での相談」がひとつ。加えて、「いのちの教育」や「自己肯定感の育成」に力を注いでいる。

*Q-Uアンケート…児童生徒や学級集団の状況を客観的に分析し、学校生活への満足度などを測るための調査

一般質問

町政のここはどうする？

一般質問は、議員が町の行財政や将来に対する考え方などを問い、適切な町政運営を進めているかチェックするものです。山辺町議会では、年4回の定例会で議員が一般質問をしています。

町ホームページ
山辺町議会内で
議会中継を
発信中!!



12月の定例会では、6人の議員が一般質問を行いました。

- 斉藤 昭彦 **豪雨災害** 内水氾濫軽減のための排水ポンプを増やしては
- 安達 春彦 **いじめ・自殺防止** いじめからつながる自殺を防ぐ取り組みは
- 峯田 博 **SDGs取組強化** 町が主導して「SDGs」への取り組みの強化が必要では
- 竹俣 朋 **コミバス事業** コミュニティバス事業の活性化を
- 武田啓一郎 **農業振興** 持続可能な農業やまのべは どう描く
- 遠藤真由美 **居場所づくり** 子どもたちのさらなる安心のために



定例会のお知らせ

今回の定例会は3月です。傍聴については、町ホームページをご覧ください。電話 023-667-1117 (議会事務局)

町が主導して「SDGs」への 取り組みの強化が必要では



博 (町長)「SDGs」は国連で採択された目標で、町は意識して推進に役立ちたい。資力がなければならぬ。目標である。

質問 SDGs目標達成期限の2030年まであと8年余りの現在でも、町内の取り組みは、弱い状況にある。「後世の世代が持続可能な形で発展を続けていく」ために町はSDGsをどのように捉えているか。

答弁 SDGsは、国際社会全体の開発目標として、貧困や格差の解消、教育など基本ニーズの充足、地球環境の保全などに係る17の目標を設定し、さらに169の具体的な達成基準(ターゲット)から構成され「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指し、経済・社会・環境の三つの側面から総合的に取り組むこととし

質問 市内と連携する町内の企業・団体・個人の参加で、取り組みの交流や学習を行う「やまのべSDGs推進チーム」を組織しては。

答弁 まずは県が先行的に取り組んでいる。町は企業や団体などのニーズを見定め、必

要に応じ取り組みを検討する。

質問 SDGsの理解を広げるために、主に町内で活動するSDGsカードゲームファシリテーター資格取得への援助は。

答弁 資格取得には費用が掛かるものもある。カードゲームもSDGsを普及し、学習するための一つと考えるが費用対効果を十分に考慮し検討する。無償でカードゲームが体験できるワークショップを実施している。県内企業もある。こうした企業と連携し、普及啓発することも検討の一つと考える。



コミュニティバス事業の 活性化を



朋 (町長)実施できるものではないものを整理し、町民の利便性を高められるよう運行していく

質問 コミュニティバス(コミバス)のターゲットとする客層と主たる目的は。

答弁 町民に限らず誰もが利用できるが、ある程度言えれば町内77%にあたる一定の距離の範囲内に駅や民間のバス停がない交通不便地域に居住する学生や高齢者など「移動制約者」である。学生は通学、高齢者は通院や買い物目的である。

質問 利用者の利便性の観点から、バス停をスーパリーの駐車場内へ設けるなど、デマンドバスの指定拠点なみにできないか。

答弁 東西線、南北線は交互に運行している時間帯があるので、その時間帯に合わせて乗っていただくことになる。乗り継ぎ料金の設定はない。



町民を乗せて走るコミュニティバス車内

質問 コミバスの利用者は年々減少しており、1日の運賃収入は単純計算で3300円程度だ。「移動制約者」である高齢者に対し、運賃を無料にする考えはないか。

答弁 運賃はそれぞれコミバス100円、デマンドバス500円と低料金に設定している。高齢者にもバスを利用する人もいれば利用しない人もいる。公平性も考えて、これからは利用者にも負担を大きく。

持続可能な農業 やまのべはどう描く



(町長) 大小規模共存で今後も町農業は進む

質問 持続可能な開発目標は、あらゆる分野で取り組まれている。農業においても、スマート農業への取り組みの中、自然災害とコロナ禍のダブルショックを受け、町全体の停滞に及びかねない懸念される。凍霜害の果樹農家、米価下落の稲作農家への補填支援対策は。

答弁 米価下落による減収損失は、町全体で3千万円程度と見込んでいます。ナラシ対策の発動を期待。県も応援給付金の実施を検討しており、町も検討する。スマート農業への取り組みは、国県とともに導入に向けた支援などを行っていく。

質問 コロナ禍で著しくコメの主力品種「はえぬき」について、来期以降の作付けに対し、生産者と町で品種の変更を検討協議していく考えはないか。若い稲作農家の声も聞いてみるべきでは。

答弁 多様な担い手の確保、スマート農業の推進、農業の持つ価値や意義を共有し、連携を深めさせていく。今年の減収損失額の把握は現在のところできていない。サクランボは、河川沿いで被害が大きかったが、町全体で前年度比2〜3割減。



農業散布用ドローン導入もスマート農業の一つとして進む

質問 町独自の持続可能な兼業農家支援策、退職後就農者支援を推進すべきでは。

答弁 独自支援策の創設の考えはないが、専業、兼業農家に関わり、補助制度などの拡充などの検討をしていく。

質問 これからも、大小規模共存する形で当町の農業は進み、可能な限りより良い支援を検討したい。

質問 町では、放課後子ども教室での体験活動の開催、中央公民館の中にも子どもたちの居場所が欲しい

質問 「やまがた女性」のつながり緊急サポート事業」



公民館の中にも子どもたちの居場所が欲しい



美 (町長) 地域の方々の協力で、さまざまな子どもたちの居場所づくりに取り組んでいる

質問 平成30年度「国民生活基礎調査」によると、県内17歳以下の子どものうち、「相対的貧困率」の割合は、全国を上回る16%であり、ひとり親世帯数は増加傾向にある。県ではこの調査を

質問 さまざまな活動があるが、どれも親の申し込みが必要である。各公民館などでも気軽に立ち寄れる居場所づくりを、行政から地域に呼びかけてはどうか。

答弁 公民館の利用状況などもあり、呼びかけについては検討していく。

質問 一人ひとりが自分の体を理解し計画を立てて生理用品を用意することは大人になるための大切な準備であり、また困りごとや悩みについて把握し必要な支援につなげるため、保健室を窓口として配付している。今後県の通知などを確認して考えていきたい。

の中で、児童・生徒への生理用品配布の実施が盛り込まれ、全国的に取り組む自治体が増えている。女性の健康と尊厳、子どもたちの安心の観点から、当町の小・中学校のトイレに生理用品の配置をしては。

答弁 一人ひとりが自分の体を理解し計画を立てて生理用品を用意することは大人になるための大切な準備であり、また困りごとや悩みについて把握し必要な支援につなげるため、保健室を窓口として配付している。今後県の通知などを確認して考えていきたい。

新しい町への挑戦

総務又教常任委員会

より良い活動が 展開されるよう期待

山辺町中央公園および体育施設指定管理を受託している事業者と、現在の運営状況や今後の課題について10月29日、意見交換を行いました。

事業者では、利用促進とスポーツ振興の拡大、コミュニティの場を提供することを基本方針として運営。また子どもから高齢者まで全年代を対象としたスポーツの普及・振興に力を入れ、町民の健康増進にも取り組んでいる状況でした。

現状は新型コロナウイルス感染症の影響で閉館を余儀なくされた時期もあったことから利用者数が減少しています。しかし手指消毒用の機器や自動検温機の設置をはじめ、トイレを和式から洋式へ改修するなど、安全安心な施設管理運営のため、外国人利用者にも配慮した工夫が施設内の随所で見られました。

また、同施設は災害時に避難所となるなど、防災・減災の面でも重要な施設です。この点でも「支援に関する協定書」に基づき、積極的に支援・協力してもらうことを確認しました。

今後も多様化したスポーツニーズに対応し、健康と体力の維持増進を図る施設として皆さまに利用してもらえればと思います。



施設内の随所で感染症対策

厚生産業常任委員会

さらなる誘客拡大に期待

指定管理を委託している山辺温泉保養センターの管理・運営状況などを伺うため11月10日現場視察を行いました。

施設内の設備案内では、入り口の下駄箱の向きを変えて明るい雰囲気にしたことや、食堂のメニューを増やすなど工夫しているとの説明を受けました。

管理・運営状況の説明では、昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で令和元年度と比較すると7万人も入浴者が減少し、現在持ち直しているが、燃料費の高騰が心配であること、導線の良くない売店・食堂への誘導町内で宴会のできる場所が少ないことから女子会プランなどを企画したいが、現在の厨房で可能かどうかなど、さまざまな課題が出されました。

議員からは、山間部の住民が気軽に来られる方策はないか、温泉の温度やシャワーの設定など、町民からの声が出されまし

た。「町民の健康を増進し、保養と福祉の向上に資すること」が目的である温泉の、さらなる誘客につながるよう、議員も一緒に考えていきたいと思



誘客拡大と福祉の向上を

山形県町村議会議長会研修会

新しい価値を見出す

県町村議会議員研修会が10月20日、山形市国際交流プラザで開催されました。

中央大学法科大学院教授で、弁護士野村修也氏から「まちづくり・地方創生成功のカギ」と題して講義を受けました。野村氏はテレビのコメンテーターとしても多数出演し、活躍されています。

新しい資本主義CSV（共通価値の創造）で、社会的課題を解決してなお利益を上げる。それがこれからの企業が目指すべきものであるということ。例えば、

○飲酒運転を撲滅するためにノンアルコールビールを開発
○子どもの貧困と食品ロスの双方を解消するために、余剰となった商品を子ども食堂で提供

他に、ICTの活用でリモート学習など合同授業「つながる教育」をすることにより、これからの教育には過疎問題はなくなるという

ことでした。さらに教師同士の情報交換が容易にでき、教育力の向上につながることも、可能性は広がっているようです。空き家対策では、町のデザインを踏まえた子育て世帯の移住を促進するべきなどたくさんのお話をいただきました。



まちづくりのアイデアを学ぶ

村山地方町村議会議長会議員合同研修会

災害時における 地域支援の状況

村山地方7町村議員合同研修会が12月16日、西川町交流センター「あいべ」で2年ぶりに行われました。

国交省東北地方整備局の中川博樹氏と一般社団法人東北地域づくり協会の山科勝嗣氏から講演を拝聴しました。

中川氏は、①東北地方整備局について②災害時における地域支援について（国土交通省緊急災害派遣隊「TEC-FORCE」の活動内容）など6項目について、動画を交えて詳細に講演。とりわけ国土交通省緊急災害派遣隊について、地方自治体（主に県）の要請によって、大規模災害時の被災自治体へ支援（被災状況調査、応急対策、高度技術指導など）を迅速に行う部隊が平成20年より創設され各地で活躍されている様子を話されました。

山科氏は、災害復旧技術専門家派遣制度は、主に市町村事業を対象に災害の調査・助言を無償で行う団体

（旅費など実費は自治体が負担）であること。令和2年の西川町への派遣を例に活動が紹介されました。詳細は、それぞれのHPにも掲載されています。



災害時における地域支援を学ぶ

商工会役員懇談会

山辺らしさを前面に

商工会役員の方々と議員全員の懇談会が中央公民館にて12月13日に開催されました。商工会の現状や活動報告後3部会に分かれ意見交換が行われました。

各部会で話し合われた内容は次の通りです。

商業
・プレミアム商品券が何割ぐらい町民に行き渡っているのか。
・それぞれの商店を見て生の声を聞いてほしい。
・規制緩和で住宅や企業などを増やせば、人口も増えるのではないか。

建設
・新型コロナウイルス感染症の影響から資材の高騰で困っている。
・今後も住宅リフォーム助成制度を続けてほしい。
・町発注の工事は町内業者に

つなげてほしい。
工業
・新型コロナウイルス感染症の影響で部品が入らず生産に影響がある。
・ニット業界は、自社ブランドを確立している企業とアパレル催事企業との二極化が進んでいる。
・メディアやSNSを活用してPRしてみてもどうか。2年ぶりの開催で活発な意見交換が行われました。



工業部会

建設部会

商業部会

出前議会

地域の皆さまとの交流

近江の老人クラブ「あけぼの会」さんからの依頼で、11月26日に出前議会を開催しました。10数名の参加者からは、さまざまな意見が出されました。

▽運転免許の返納に対し、現在は申請すれば最長2年間のコミュニティバス無料券が配付されるが、返納すれば免許を持たない配偶者の交通手段が無くなる。配偶者分の無料券をお願いできないものか。足腰が弱つてくると停留所まで行くのも大変な人もいます。

▽高齢者への温泉無料券をまた交付してほしい。家族に乘せて行ってもらおうが、無料券を家族も使えれば嬉しい。

▽農業後継者がいない。
▽ワクチン接種でコールセンターに電話することや、医療機関で並ぶのも苦労した。

▽合併の話があったが、山形市になれば若い人も増えるのかなあ。合併した自治体に聞けば独自の町がよかったという声もあった。

意見の中で特に、「近江地区は山形にも近く、町内にもすぐいけるので便利な所だと思っていたが、免許を返納してからはすべてが遠く感じて不便な地域だと思った。」という声が印象に残りました。皆さまの声を町政に反映できるよう努力してまいります。



身近な問題を町政に